



昭和大学  
SHOWA University

—昭和大学歯科病院の理念—

患者本位の医療  
先進医療の推進  
良き歯科医師の育成

発行責任者 病院長 馬場 一美  
編集責任者 広報委員長 丸岡 靖史  
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1

TEL 03-3787-1151(代表)  
いちいちごいち

ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html>

## 予防の大切さ

歯内治療科 科長 鈴木 規元

今年は暖冬で過ごしやすい冬ですが、皆様体調を崩してはいませんか？ 普段暖かい日が多いだけに、平年並みの気温であってもいつもよりとても寒く感じ、体に応えます。最近では北風の冷たい日もありますので、風邪などひかぬよう、お体には十分お気をつけください。

世の中には新型コロナウイルスの感染が広がり、不安に感じていらっしゃる方も多いと思います。その一方で、先月のインフルエンザの患者数は、例年と比べて顕著に少ないとのこと。新型コロナウイルスの感染を予防するため、例年よりも手洗いやうがい等の感染予防策を徹底した人が多かったからではないかと言われているようです。思わぬ副産物ですが、やはり予防に対する意識をしっかりと持つことは、とても大切であり、有意義だということですね。

さて、歯内治療科は歯の根の治療をすることによって歯を保存することを目的とした診療科です。歯を失う二大原因はむし歯と歯周病であり、2018年に8020推進財団が全国の歯科医院で行った抜歯原因調査によると、永久歯の抜歯原因の第一位は歯周病(37%)、第二位はむし歯(29%)、第三位は破折(18%)となっています。

歯の根の治療(根管治療)が必要となる歯の病気は主にむし歯が原因で起こります。進行したむし歯によって歯髓(歯の神経)に炎症が起きた状態を歯髓炎、さらに炎症が進行して歯髓が死に、根の先に炎症を起こした状態を根尖性歯周炎といいますが、いずれも炎症を起こした歯髓や細菌感染源を除去する根管治療を適切に行わないと

歯を保存することができなくなってしまう。

さらに、第三位の「破折」とは、歯や歯の根にひびが入ったり割れてしまったりすることをいいます。破折が起こると残念ながら治療によ

って治すことはできず、歯を抜かなければなりません。破折は噛む力によって生じることが多く、さらにその発生リスクは根管治療を行った歯の方が高くなります。

根管治療を行った後は冠をかぶせるなどの処置をしてまた噛めるようにするわけですが、根管治療が必要なまでにむし歯が進行した歯はもとも歯質が少なくなっている上に、治療を確実に行うためにはある程度歯を削ることも必要ですので、どうしても根管治療後には残存する健全な歯質が少なくなります。すると、長い間には噛む力に歯の根が耐えられなくなり、ひびが入ってしまうことがあるのです。少しでも破折のリスクを減らすためにできるだけ歯は削りたくないですが、感染している歯質をしっかりと取り炎症を治すためにはある程度削らなくてはならないと、私たちはいつもこのジレンマと対峙しています。破折も大きく見ればもともとのむし歯が原因ということもできるわけです。

正しいブラッシングや生活習慣の改善によってむし歯を予防し、歯を長く保存できるようにしましょう。



## 診療科紹介: 歯内治療科

歯内治療科 診療科長補佐 高林正行

私たち歯内治療科は、その名が示すとおり歯内疾患を取り扱う専門診療科です。歯内疾患とは「歯髄炎」と「根尖性歯周炎」に大きくわけられます。歯髄炎に対しては、細菌感染により炎症を起こした歯髄(いわゆる歯の神経)を除去し、細菌感染が歯根の外側まで波及しないようにする治療、根尖性歯周炎に対しては、細菌感染が進んだ根管(もともと歯の神経で満たされていたスペース)を機械的・化学的に清掃し、細菌を可及的に減らす治療を行います。根管治療とよばれる、いわゆる「歯の根の治療」「歯の神経の治療」を日々行っております。

当診療科では保険診療、自費診療に関わらずマイクロスコープを積極的に臨床応用しています。日本でマイクロスコープが使用され始めた時期から導入して研鑽を積んできており、治療の正確さや確実性の向上に加え、処置中の動画や写真を治療後の説明に用いることで、多くの患者さんから安心した治療を受けられたとの評をいただいております。

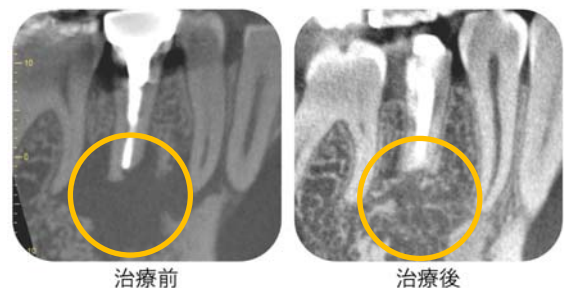
通法の根管治療のみならず、根管治療が奏功しない歯に対して、歯科用CTとマイクロスコープを利用した外科的根管治療も多く行っています。現在は保険収載されている本治療法ですが、当診療科は保険収載される以前から先進医療認定施設として本治療法を行っており、長きにわたり数多くの治療経験を有しております。

また昨年の下半期から、根管治療の自費診療がスタートしました。保険診療は使用する薬剤や材料の制約があり、世界的にみた理想的な治療に比べて、その内容に限界がありました。しかし自費診療を選択することで、治療に使用する薬剤や材料の選択の幅が広がり、より一本の歯の保存に対して高い予知性を担保した治療を提供できるようになりました。

患者さんがもっている根の治療のイメージとして

は、「何度も通院が必要」、「治療中ずっと痛みを我慢しなくてはならない」、などを挙げられる方が多くおられます。当診療科では、根管治療の際は基本的に局所麻酔下で痛みを感じずリラックスした状態で治療を受けていただけます。また、一回の治療時間をしっかり確保させていただいているため、多くの治療で従来の治療に比べ少ない通院回数で治療を終わらせることが可能となっております。そして、マイクロスコープを使用した歯根の精査によって肉眼では同定が難しい歯根破折などの検出精度も上がっており、抜歯が必要な歯に対して無駄な治療を長引かせないで済むことも多くなっております。

最近では、患者さん自身が色々とお調べになり、当診療科での治療を希望されて来院される方も増えております。専門家でない方でもこのように新しい情報に触れられる程、歯科の世界でもアタリマエの変遷が起こっています。ご自身がいま受けている、もしくは以前受けられた根の治療に不安があるようでしたら、是非この機会に歯内治療科までご相談ください。



外科的根管治療の術前術後の比較。治療前の画像は根の先端部に大きな骨の欠損がある。治療後は根の先に骨の再生が認められる。



外科的根管治療中の様子。治療中の術者の視野は、そのまま写真撮影や録画が可能であり、治療後の説明などに用いている。

## 診療の流れ: 口腔リハビリテーション科

口腔リハビリテーション科 科長 高橋 浩二

当科は摂食嚥下障害、構音障害、閉塞性睡眠時無呼吸症候群および口腔機能低下症や異常習癖など口腔顎顔面の機能障害の検査、診断、治療、予防法の指導を行っています。

特徴としては、前述したさまざまな口腔機能障害に幅広く対応できること、言語聴覚士、歯科衛生士などの専門スタッフと歯科医師が協働して診療する体制が整っている点です。さらに当科では従来の方法に工夫を凝らし、患者さんやご家族が診断結果を容易に理解できる検査(図1、2)や効果が得やすい治療を実施しており、昭和大学の附属病院だけでなく、他大学の医学部附属病院や、がん専門病院、市中病院、個人医院、地域医師会・歯科医師会などから多くの患者さんをご紹介いただいております。さらには北海道から九州に至る日本全国から患者さんが当科の診療を受けに来院され、また見学や研修する医療関係者も後を絶つことはありません。



図1 検査時状況画像、嚥下時産生音同時記録嚥下造影検査



図2 検査時状況画像、嚥下時産生音同時記録嚥下内視鏡検査

また、当科は要介護者のご自宅、地域医療施設や介護施設への訪問診療についても対応しており、当院より直線距離で16km以内であれば保険診療で訪問診療を行っています。なお、この場合には、患者さんやご家族からのご希望に加え、診療対象者の主治医である医師あるいは歯科医師による情報提供が必要となります。一方、診断が行われていても保険診療が認められていない疾患では私費診療になりますのでご注意ください。

機能障害患者さんの検査、治療には時間がある程度かかりますので、必ず歯科病院の地域歯科医療連携室(03-5498-1954)にお電話いただき、ご予約をおとりになってからおいで下さい。

幼小児にみられる構音障害については先天性疾患など保険対象となる疾患以外は私費診療となり、初診時には歯科医師が形態と機能の検査を行い、2回目から言語聴覚士による検査と訓練が開始されます(図3)。訓練においては保護者の方にご同伴いただき、ご自宅では保護者の方による訓練を次回来院まで継続して行っていただきます。

以上が当科の診療の概要ですが、スタッフ一同、現状に甘んずることなく日々研鑽に励み、診療の質の更なる向上に邁進しております。



図3 言語聴覚士による構音訓練



## 部署紹介:事務課管理係

当院の事務課管理係は職員の労務管理や院内における医療安全、感染管理、管財、営繕、経理、臨床試験審査等、多岐に渡る業務を担っています。皆さんが手にしているこの病院だよりも広報担当が中心となって作成し、当院の情報をより分かりやすくお伝えするように努めています。

また、毎年秋頃に開催している昭和大学公開講座につきましても事務課管理係が主体となって運営しています。

開催当日には参加者より、たくさんの質問をいただき、普段患者さんが抱えている歯科診療に関する不安な点等を解消いただける場ともなりますので、ぜひ地域の皆様にもご参加いただけると幸いです。

事務課管理係 係長 蓑方かなえ



昭和大学公開講座の様子

## 昭和大学口腔ケアセンター周術期講習会報告

第16回になります昭和大学口腔ケアセンター周術期講習会が、令和2年2月5日(水)午後8～9時に昭和大学旗の台キャンパス1号館7階講堂で行われました。

今回は、わが国で最も多い肺癌に関して、昭和大学医学部外科学講座呼吸器外科学部門教授武井秀史先生にご講演いただきました。演題は「呼吸器外科手術における周術期管理～肺癌手術を中心に～」という日常遭遇する肺癌のトレンドから、肺癌の最新治療まで口腔ケアの必要性もふまえて短時間の中で、分かりやすく紹介いただきました。肺癌も口腔の清掃状況が、手術後の予後にも影響するため大変重要です。講演後には、近隣の歯科医師会の先生方からも多くの質問を頂戴し、終了後も熱心に質問されていました。

また、次回は10月21日(水)20時からです。お見逃しなく。

昭和大学口腔ケアセンター長 弘中 祥司



## 編集後記

2月に入っても暖冬が続いています。まれに平年並みの気温の日があっても、寒暖差を強く感じます。昨今は新型コロナウイルスの流行などもあります。まずは手洗いやうがいなど予防を徹底し、体調を崩さないようにお気を付けください。

(T.T)

